

2016. 11. 10 (木)

1970年代韓国の女性労働運動とキリスト教

横田伸子

韓国との出会い

この4月から、関西学院大学社会学部に赴任してまいりました。もともとは山口大学経済学部で21年間、東アジア経済論、とくに韓国経済論を教えてきました。大学教員になる以前は、1990年から1995年3月までの約4年半、韓国のソウル大学の大学院で勉強をしていました。

今、韓国文化は、韓流ブーム、韓流映画、あるいはK-POP等で世界中で大人気ですけれども、皆さんは1990年代生まれですからご存じない方もいるかもしれませんが、当時の韓国は1987年に民主化を迎えたばかりでした。ですから、韓国社会は、つい30年前まで軍事独裁政権下にあったのです。私はまさに、韓国の人々が軍事独裁政権から自らを解放して、民主化した熱気が冷めやらない時期に韓国のソウル大学に留学し、大変多くのことを学びました。そのことに本当に感謝しています。

外国人研究者の私にとっては驚きでしたが、韓国の民主化運動を支え、労働運動の一つの原点になったのが、1960年代末から70年代にかけての若い女性労働者の運動でした。当時、多くが10代の女性労働者であった彼女たちへのインタビュー調査を通

じて感銘を受けたのは、彼女たちが、キリスト教の神の前の平等という教えに「響」き合っていて、連帯しながら彼女たちの運動をつくっていったことです。

軍事独裁政権下の韓国

1960～70年代の韓国は、軍事独裁政権下であり、それは開発独裁と言われ、経済開発至上主義に向けて社会全てが統制されていました。皆さんも私ですが、民主主義的な社会に最初から生まれ育った人間にとっては、軍事独裁政権がどれほど恐ろしいものなのかはわかりません。それに逆らう人たちは、場合によっては国家保安法で死刑判決を受けて死刑になった人もいますし、国家の方針に反するからといって捕まり、激しい拷問を受ける中で亡くなった人もいます。このような戦慄すべき軍事独裁政権下で、小学校や中学校を卒業したばかりで農村から出てきた若い女性労働者たちが、どのように自分たちの運動をつくり上げていったのかについて話したいと思います。

韓国社会におけるキリスト教の占める位置

その前に、先ほど打樋先生とも話していたのですが、日本のクリスチャン人口は大体、何パーセントですかと伺いましたら、1%未満ですとのことでした。じつは、これも私が韓国に初めて行った時驚きだったのですが、ソウルでは教会の十字架をそこかしこに見ることができます。韓国のクリスチャン人口はプロテスタントが18.3%、カトリックは10.9%、合わせて30%近くにも上ります。まず、それを心に留めて聞いていただきたいと思います。

解放以後から1970年代までの韓国の歴史

韓国の歴史について、かいつまんで話したいと思います。1945年8月15日に、日本の植民地支配から朝鮮半島は解放されました。日本には敗戦であったわけですが、日本の植民地支配を受けた人々にとっては、まさに解放以外の何ものでもなかったわけです。

そして、とても残念なことに、1948年には朝鮮半島で生きる人々の願いとは全く逆に、南の大韓民国、北の朝鮮民主主義人民共和国に分断されて2つの国家が生まれました。その2つの国家が1950年から1953年の朝鮮戦争で、同じ民族同士で激しい戦闘を展開しました。まさに、激しい戦火が小さな朝鮮半島の南から北まで行ったり来たりした3年間でした。これで朝鮮半島は焦土と化し荒廃し尽しました。

これ以降、分断国家としての南の韓国で

は、軍事独裁政権による開発独裁政治が長く続き、その結果、徹底した民主化運動や労働運動の弾圧が行われました。日本の戦前の治安維持法を模倣した国家保安法の下で、死刑に処せられて亡くなった人もいました。

軍事独裁政権による弾圧の一つの標的となっていたのが労働運動でした。恐ろしい命の危険を感じながら韓国の女性労働者たちは、女性であることや工場労働者であることに対する差別を受けて、その差別ををね返しながら、運動をつくっていったことを皆さんにお話したいと思います。

まず、皆さんに申し上げておかなければならないことがあります。漢江はソウルの真ん中を流れる大きな川ですが、1960年代後半から韓国は「漢江の奇跡」と呼ばれる高度経済成長を遂げ、成長率は鈍ってはいますが、現在まで経済成長は続いています。とくに1960年代から70年代に高度経済成長の基礎が形成された時期を「開発年代」と呼びますが、開発年代を支えた人たちが、工場で繊維や衣服、雑貨、電子部品の組み立てなどの労働者として、農村から都市に出てきた10代から20代の若い女性労働者たちです。しかしながら、韓国語で女工という意味の「コンスニ」という言葉には、製造業の生産に従事する女性労働者であることに対する、深い差別の意味が含まれていました。このように、開発年代とは、縁の下の力持ちとして高度経済成長を支えているのに、その人たちが社会的な差別と抑圧を受ける時代でありました。彼女たちは驚くほど過酷な労働環境の下で、低賃金労働者として働きました。

1970年代韓国の若年女性労働者の状況

ではいよいよ主題の、韓国の民主化運動や労働運動の主体となり、韓国の労働運動史の金字塔となる東一紡織の労働争議を闘った女性労働者の運動の話に入りたいと思います。綿から糸を紡ぎ、糸から布にする東一紡織という紡織会社の労働争議をこの時代に組織した、元東一紡織労働組合委員長の李 総角氏^{イ チョンガク}へのインタビューが今日の報告の下敷になっています。

1977年と1978年に東一紡織は労働争議を行い、それが韓国の民主的な労働運動の始まりだったと今でも語り継がれています。でも、小学校や中学校しか出ていない若い女性労働者たちが労働運動を組織するに至るまで、大きな心の葛藤や考え方の変化がありました。

まず、1960年代と70年代の東一紡織の女性労働者の在り方について説明しますと、1,400人の従業員のうち1,200人が若い女性労働者で、男性社員はわずか200人でした。72年に女性が中心となる労働組合をつくるまでは、男性社員が労働組合を牛耳っていて、会社と結託して女性労働者を差別して弾圧するような労働組合でした。

自らの労働組合を組織する前までは、彼女たちの1日の労働時間は14時間から15時間で、大変な長時間労働です。この中には食事をする時間は含まれていません。仕事を始める前までに食事を済ませておくことが義務づけられていました。綿から糸を紡ぐ作業ですから、常にお湯を沸かしていなければいけませんので、彼女たちは常時40度の熱気にさらされていました。それから、機械の轟

音のために、働く人全員が耳栓をして働いていました。綿から出るもうもうたるほこりが目と鼻と口に入ってきました。さらに、1分間に140歩、歩きなさいという訓練を受けていたので、14～15時間中、機械の間をほとんど走り回っていました。

その結果、彼女たちは日常的に、肺結核、胃腸病、水虫、聴覚障害などの職業病に悩まされていました。工場内には脱衣所やシャワー室もありませんでした。1カ月に休日は1日と決まっていますが、実際は休日をもらったことありません。賃金は1日70ウォンです。今の額に換算してもあまり意味がないかもしれませんが、7円の日給を稼ぐために、まさに粉骨砕身して働いていたのが彼女たちです。

そのような状況の中で、彼女たちの意識がどのようなものだったかという点、「息子と同じように教育も受けられず、家族の生活を支えているのにその努力も家族から認めて貰えないのは、娘として生まれたのだから仕方がない、男性と全く同じ仕事をしていても、男性より少ない賃金しかもらえないことも当たり前のことだ」と思っていました。また、「貧しいのは、そのような家に生まれてしまった自分の運の悪さのせいだから、会社の言うとおりに働いて、お金は与えられるだけのものをありがたく受け取り、不平などは述べていけない」と、自ら女性蔑視的な運命論に陥っていました。

若年女性労働者の運動とキリスト教

彼女たちの気持ちと常識を逆転させたのは、神の前の平等を説くキリスト教でした。当時、韓国では、プロテスタントでしたら都

市産業宣教会の牧師さんが、カトリックでしたらカトリック労働青年会の神父さんたちが自分の身分を偽って労働現場に入り、女性労働者と全く同じ労働をして工場の中で人間関係をつくりながら労働者の意識を変えていったのです。「私たちが機械のように働き、非人間的な待遇と性差別を受けているのは、神様の意志ではありません。私たちに力がなく、知識がなく、何もわからないから、抑圧と差別を甘んじて受けなければならないのです。神の前に人は皆平等であり、女性労働者も人間らしく生きる権利があるので。そのためには、私たちは自力をつけなければいけません」という主張と教えを彼女たちは行いました。

もう一つ特筆すべきことは、牧師さんや神父さんたちが「小サークル」を作ったことです。これは言わば、小さな部活ですが、料理を教えたり、裁縫を教えたり、読書会をしたり、趣味を通じた時間をつくり、女性労働者の仲間意識をどんどん深めていきました。やがて、その趣味のサークルが、労働法や社会問題の講座へと進化していきました。この小サークル運動が活発になるにつれて、女性労働者が「自分たちの今の状況はおかしいのではないか」と気づくとともに、連帯感を抱き、自らの社会的、経済的な地位の向上のため労働組合を組織していく運動へと発展させていったのです。

この結果、軍事独裁政権下での命懸けの労

働運動でしたが、彼女たちは様々な成果を得ることができました。まず、食事時間を勝ち取りましたし、また、今でこそ当然ですが、生理休暇も勝ち取りました。男女の賃金差別も撤廃させましたが、これは1970年代にあって、全世界で先駆的で画期的な出来事ではなかったかと思います。さらに、脱衣所やシャワー室などの基礎施設も設置させることに成功しました。

こうした東一紡織の女性労働運動が、1987年の韓国の民主化運動につながっていったことは言うまでもありません。何よりも、「神の前の平等」というキリスト教の教えが、若い女性労働者の心に「響」き、それが労働組合を作る支えとなり、民主的な労働運動の礎となっていったというのが今日の私のお話のポイントです。

アメリカのヒラリー・クリントンさんは大統領選挙で負けてしまい、思った以上にガラスの天井は硬くて、分厚かったと思います。しかし、私は、韓国で普通の若い女性たちがさまざまな苦難に立ち向かいながら労働運動を通して一つ一つ成果を勝ち取っていったことを知っていますので、絶望はしていません。分厚いガラスの天井を壊すのに、全世界の女性達が諦めずに一步一步地道に進んでいくしかないと思っています。私の話は以上です。ありがとうございました。

(社会学部教授)